



《流水間断無(奥入瀬渓流)》(部分) 1994年

流れる水は
悠久に
流れている
時の流れのように

平山郁夫 奥の細道

東北を描く

2018年

3月10日 [土] —

9月11日 [火]

休館日 会期中無休

開館時間 10:00—17:00 (入館は16:30まで)

入館料 一般1200円/高大生800円/小中学生 無料
*障がい者手帳をお持ちの方無料、介護者の方1名まで600円
*70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引

主催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
後援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、
朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、信濃毎日新聞社、
八ヶ岳ジャーナル、テレビ山梨、エフエム富士、エフエム八ヶ岳

平山郁夫が東北の地に訪れたのは、一九五九年、東京芸術大学の副手の頃です。当時は被爆による後遺症で悩み、体調も思わしくありませんでした。そうした状態の中で目にした奥入瀬渓流について、画家は「生きる喜びを心から教えてくれた」と言います。これ以降、平山は東北に惹かれて何度か取材旅行を行い、平成に入る頃には俳聖の松尾芭蕉を偲んだ《奥の細道》という素描シリーズを発表し、金華山や立石寺などを描きました。その他にも中尊寺や毛越寺を描いた《平泉》の素描を発表するなど、画家にとって東北は思い入れのある所もありました。本展では、これら東北の素描作品と共に、当館の誇る大作《流水間断無（奥入瀬溪流）》をあわせてご紹介いたします。

平山郁夫 金華山スケッチの様子(1997年) 撮影：鹿井清介

奥の細道

平山郁夫

東北を描く



金華山の朝陽(1997年)



金華山 黄金山神社本殿(1997年)



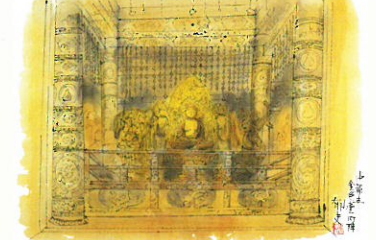
奥州一の宮 塩竈神社本殿(1997年)



毛越寺庭園 大泉が池(2000年)



北上川と東稲山を高館義経堂から望む(2000年)



中尊寺 金色堂内陣(2000年)



ワークショップ Gemstone soap workshop

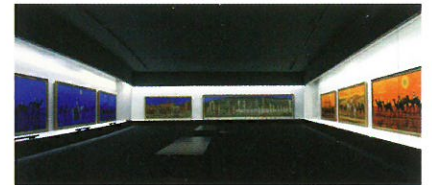
講師：佐藤 知恵子(urara+)

日時：2018年3月17日(土) 13:30～15:30

集合場所：平山郁夫シルクロード美術館2階ラウンジ ※1階受付にてお声掛け下さい。

体験時間：約2時間 体験料：3,500円 ※体験の方は美術館見学無料

申込み方法：電話による事前予約(先着順) 定員：6名



2階大展示室 大シルクロードシリーズ

シンポジウム 東北の過去・現在・未来—平山郁夫の絵画作品を通して—

平山郁夫が描く東北の地は、古くから歴史や文化が通ってきた所でもあり、これらの中には、東日本大震災によって影響を受けた所もありました。当館では平山郁夫の《奥の細道》などの作品を通して、この地の過去の歴史を改めて振り返り、現在の様子、そして未来について東北で活躍されるお二方に語っていただきます。

■みちのくのみち—江戸時代における奥州街道—(仮)

講師：熊谷博史(もりおか歴史文化館・学芸員)

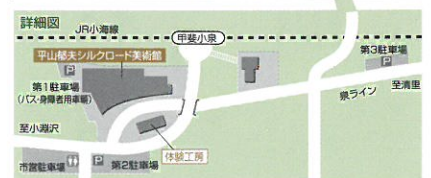
■平山郁夫のまなざしと東北の復興—大学生による文化財レスキュー活動から考える—(仮)

講師：加藤幸治(東北学院大学・教授)

日時：6月9日(土) 14:00より 会場：平山郁夫シルクロード美術館2階

参加無料

申し込みは不要・聴講無料(ただし入館料が必要です) 席は自由ですので、お早めにお越し下さい。



「奥の細道展」学芸員による見どころ解説

日時：4月21日(土)、5月12日(土)、8月18日(土)
14:00～

次回展のご案内

平山郁夫 シルクロード紀行
コーナー企画：
中国ガラス工芸の粋 鼻煙壺の魅力

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6
Tel.0551-32-0225

www.silkroad-museum.jp

<https://www.facebook.com/silkroadmuseum>

https://twitter.com/silkroad_museum



公益財団法人

平山郁夫シルクロード美術館

電 車：新宿駅(JR中央本線特急・約2時間)⇒小淵沢駅(JR小海線・7分)⇒甲斐小淵沢駅
自動車：小淵沢ICより約10分。八ヶ岳高原ライン小荒間交差点を右折後、踏切を越えてすぐ左折後300m

カフェ「キャラバンサライ」

美術館の2階ラウンジのカフェ、キャラバンサライでは、明るい店内から八ヶ岳、南アルプスが眺望できます。